新時代に対応した高校授業改革推進授業（指導・評価研究部門）

宮崎県立福島高等学校（英語科）　門田 直道

目次

- パフォーマンステスト編
  - ・ルーブリック作成（５技能×３観点による整理）
  - ・指導過程の工夫、評価シートの洗練

- 評価問題編
  - ・「評価」研究の方法に関する問題点
  - ・研究知見（そこから生じるリサーチクエスチョン）
  - ・統計的分析

パフォーマンス編①　（ルーブリック）

■ **5技能による整理**

・R / L / W / S [発表] / S [やりとり] の分類

■ **3観点による整理**

・知識/技能＝語彙文法的側面（わかる/できる）

・思判表＝Language Artsの要素を持つ学力の側面（※後述）

・人間性＝コミュニケーション継続力に関する側面

		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
Passive	聞くこと	【知識】 英語を聞く際、プレゼンの重要表現や、文章の型に意識を向ければ、内容を理解できる。 【技能】 英語を聞く際、重要表現を基に、話の概要や要点をつかむ技能を身に付けている。	目的や場面に応じ、情報やアイデアの構造・展開に注意を向けながら、話の概要や要点を聞き取っている。	英語でプレゼンテーションを聞いたり、即興のやりとりを行ったりする際、以下の項目について主体性を発揮しようとしている。 ①自分の理解度に応じて、理解を深めるような質問・行動をとること**[聞くこと・読むこと・やりとり]** ②相手が話しやすいような反応をしたり雰囲気を作ること**[聞くこと・やりとり]**
	読むこと	【知識】 英語を読む際、プレゼン原稿の頻出表現や、文章の型に意識を向ければ、内容を理解できる。 【技能】 英語を読む際、重要表現を基に、話の概要や要点をつかむ技能を身に付けている。	目的や場面に応じ、情報やアイデアの構造・展開に注意を向けながら、話の概要や要点を聞き取っている。	
Active	書くこと	【知識】 英語を書く際、読み手に配慮した表現や、効果的に伝えるための文章構成について理解している。 【技能】 英語を書く際、読み手に配慮した表現や、効果的に伝えるための文章構成を、主体的に意識して用いる技能を身に付けている。	目的や状況に応じて、自分のアイデアを論理的に整理し、書いて伝えている。	③相手の理解度や反応に合わせて、コミュニケーション上適切な行動をとること**[書くこと・発表・やりとり]** ④個々の学力に応じて、分からないことを放置せず解消したり、向上させるべき資質に向き合うこと**[書くこと、パフォーマンススキル全般]**
	話すこと（発）	【知識】 英語で発表する際、聞き手に配慮した表現や、効果的に伝えるための文章構成について理解している。 【技能】 英語で発表する際、聞き手に配慮した表現や、効果的に伝えるための文章構成を、主体的に意識して用いる技能を身に付けている。	目的や状況に応じて、自分のアイデアを論理的に整理し、話して伝えている。	
	話すこと（や）	【知識】 英語でやりとりをする際、重要表現や、会話を深める工夫ついて理解している。 【技能】 英語でやりとりをする際、重要表現や方略を使い、会話に積極的に参加する技能を身に付けている。	目的や状況に応じて、自分のアイデアを論理的に整理し、話して伝え合っている。（発表後のやりとり）	

添付資料

５技能×３観点による評価
観点規準ルーブリック

パフォーマンス編②　（公開授業）

- 指導過程の工夫（※詳細は指導案を参考）
  - ・練習段階のフロー化：ペースの異なる生徒に対応
  - ・動画撮影→自己/相互評価：自己調整学習力の育成
  - ・期日までに動画を提出（納得いくまで練習できる）

- 評価シートの洗練
  - ・練習前に評価観点（目標）を公開
  - ・評価レベルの明確な記述

    例）「十分大きな声」⇒「教室後方まで届く声」

Performance Training Sheet

（ 2 －　　－　　） Name（　　）

Check List

①原稿 Script	②発音 Pronunciation	③写×3 Transcription	④暗唱 Memorizing

書写①

添付資料

パフォーマンス
トレーニングシート

添付資料
相互評価シート

ペア練習用－相互評価シート

発表者①自己評価：（　年　組　　番　　氏名　　）

Ⅰ：パフォーマンス

Voice：声量・抑揚　（ 5　3　1 ）

Expression：表現力　（ 5 4 3 2 1 ）

Fluency：流暢性　（ 5 4 3 2 1 ）

Ⅱ：準備

Script：原稿　（ 5　3　1 ）

Slide ：スライド　（ 5　3　1 ）

Ⅲ：コメント

Positive：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Critical：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Performance Test (Evaluation Sheet)

	評価内容／点	5	4	3	2	1
Live Performance Skills	Voice（声） ・Volume ・Intonation	Good Volume & Intonation ・聞き取りやすい声量 ・強弱のある話し方		Good Volume 聞き取れる		Can't be heard 聞き取りづらい （後方まで届いていない）
	Expression（表現） ・Body Expression ・Facial Expression ・Communication	Gesture (1) ・効果的にジェスチャーを用いている	Face up (1) ・顔を上げて話している ・原稿メモを見すぎない	Eye contact (1) ・聞き手全体を見渡しながら話している	Proper use of slides (1) ・スライド&話す内容のタイミングが合っている	Audience-friendly (1) ・挨拶や質問をするなど聞き手を引きつけている
	Fluency（流暢さ） ・Pronunciation ・Speed ・Pause	Perfect Fluency ・きれいな発音、緩急をつけた話し方が身についている	Striving to speak well ・よく練習したことが伺える ・意識的に"間"を設けているのがわかる	Right pronunciation, but too constant ・発音/区切りは問題ない ・リズムが一定過ぎる	Followable, but still awkward ・発音 or スピード、いずれかに改善が必要	Not practiced enough ・発音が間違っている ・意味や内容の区切りを理解して話していない ・練習不足
Preparation	Script（原稿） ・Grammar ・Words & Phrases	Completed 原稿が完成し、教員チェックを受けた		Barely finished 原稿は間に合ったが、教員チェックを受けていない		Incomplete 原稿未完成 （紛失し提出できなかった）
	Slide（スライド） ・at least 3 slides ・Informative content	Completed at high quality ・理解の促進に役立っている ・聞き手の注意を引く工夫を豊富に用いている		Completed スライドが完成している		Incomplete スライド未完成 （3 枚未満）

添付資料

パフォーマンステスト評価シート

評価問題編 ①（研究方法の注意点）

■ 「評価」研究の方法論に関する問題

・定義や解釈の俗人化、過度な経験主義化

例）・「単語の意味を答える問題には、知識も要るし、思考した結果、それが正解だと判断する技能も要る。不正解でも何か書いてれば表現した態度があるといえる」（？）

・凝った構造のテストだが、作り方の観点を明示化していないため汎化性や再現可能性の低い実践報告

・評価問題や観点の研究は、心理統計学における「構成概念」研究に相当

⇒再現可能性と汎化性の追求を念頭において研究されるべき

⇒①先行研究、②科学的手法　に基づきリサーチクエスチョンを立てる

評価問題編 ②（先行知見）

■ 新観点の整理（先行研究に依拠した定義）

・PK-test（根岸・村越, 2014）の観点

⇒[知技]に対応する観点として、国立教育政策研究所での研究事例あり

⇒「正解がある」能力を評価する規準（形式規定 / 形式判断 の定義に注意）

⇒[思判表]に対応するものは、見つからず…？

・Language Arts（三森, 2013）の観点

⇒コミュニケーション上の配慮や、言語的戦略に関する能力（正解がない）

⇒[思判表]的な観点として対置しても、不自然ではないように思える

[形式～/構造～]×[～規定/～判断]；３観点との対応

	規定	判断
形式	知識（EE） 単語、英文法、発音の仕方など、直接的な言語知識	技能（EE） 知識（EE）を、使う場面や意図を理解した上で使いこなせる能力
構造	知識（LA） 言葉の扱い方や、論理、コミュニケーション方略など、メタ言語的知識	**思判表**（LA） 知識（LA）を、使う場面や意図を理解した上で使いこなせる能力

添付資料

形式構造・規定判断

A1	A2
B1	B2

後の分析のためのラベリング

評価問題編 ④（分析の手順）

- ２学年、コミュニケーションⅡの定期テスト（筆記型）を分析

- 設問の内容によって、２通りのラベリングを行う

  ①英語のスキル観点による４分類（Vocabulary / Reading / Grammar / Essay writing）

  ②新観点（A1~B2）による４分類

- Research Question

  Ⅰ. ①②の異なるスキル分類（観点）によって、どのような解釈性の違いが出じるか。

  Ⅱ. ①②それぞれの同一スキルが安定した(偏)相関を示すか。

  Ⅲ. ①②それぞれの異なるスキル間に安定したパターンが見られるか。

評価問題編 ⑤（分析結果抜粋）

■ Ⅰ．①②の解釈性に与える違い

・Essay(≈B2)は準備可の上で実施だったため、他スキルと明らかにパターンが異なり、準備する/しない生徒は、毎回バラバラであった。（以下、EssayとB2は分析から除く）学力というより、学習態度を示す指標として機能している節があった。

■ Ⅱ～Ⅲ．スキルの振る舞い

・スキル内の頑健性は、Vocabulary > Grammar > Reading ≒ A1 > A2 >B1といった印象だがGrammar以降はほとんど誤差レベルの違いに見える（サンプルサイズの影響もある）

・偏相関係数行列は、 ①②両方とも各テスト内では強い関連性を示す場合もあったが、４回のテスト全体で見ると、安定した関係性が見出されたとはいえなかった。

⇒現状、異なる時期間で比較可能な観点のテスト作成を行うのは難しいことの示唆。

評価問題編 ⑤（まとめ）

■ テスト観点研究の難しさ

・時期、出題範囲が変わっても「比較可能な観点」のテスト作成を行うのは難しい。

■ 意味のある定量的研究に必要なサンプルサイズ

・”意味がある教育法”とみなすために最低限必要な効果量 d =0.2, (＝偏差値を２上げる)

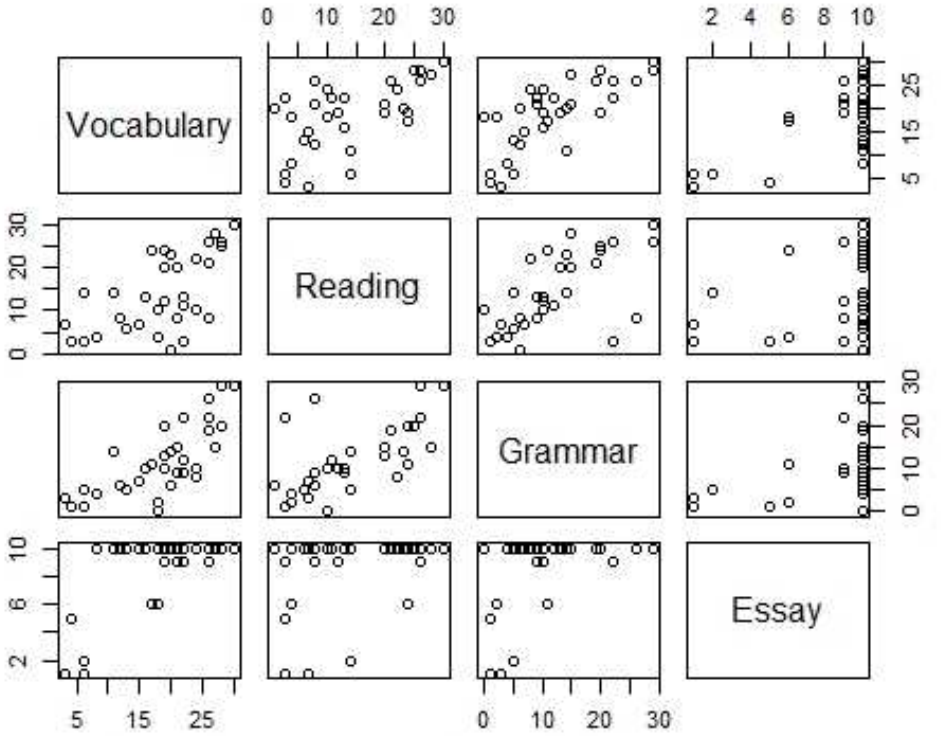
有意水準(α) ＝0.9,　検出力(1-β)=0.2,　対応あり2群の t 検定　の条件設定で、

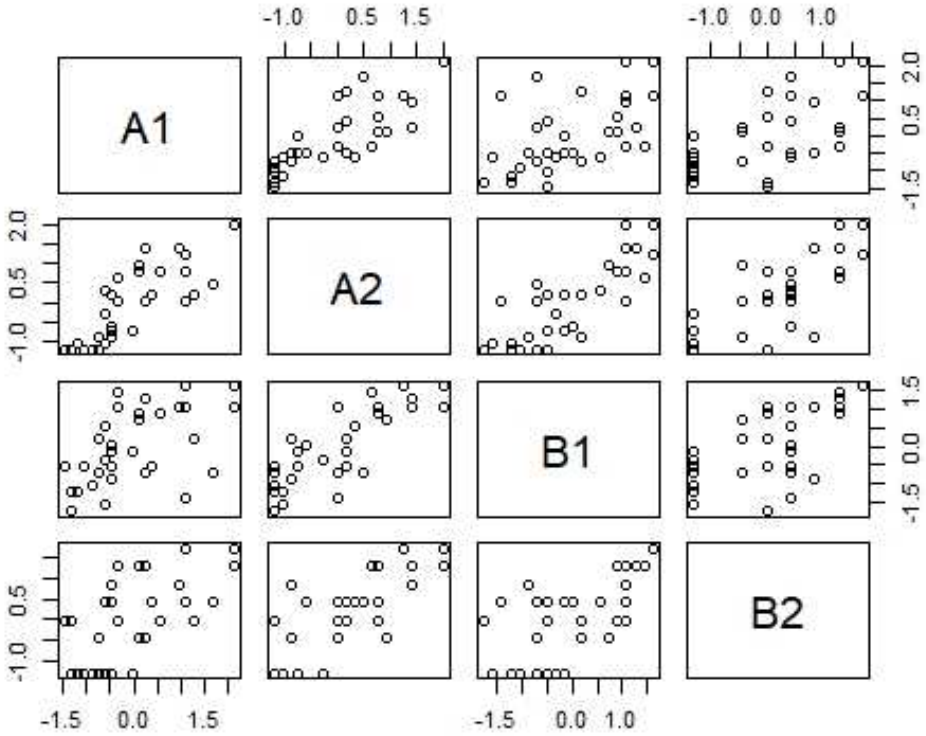
最低限必要なサンプルサイズ=114名（※ d=0.3のとき、51名必要）

→検証型の研究をする場合、サンプルサイズの大きな研究校で実施するか、

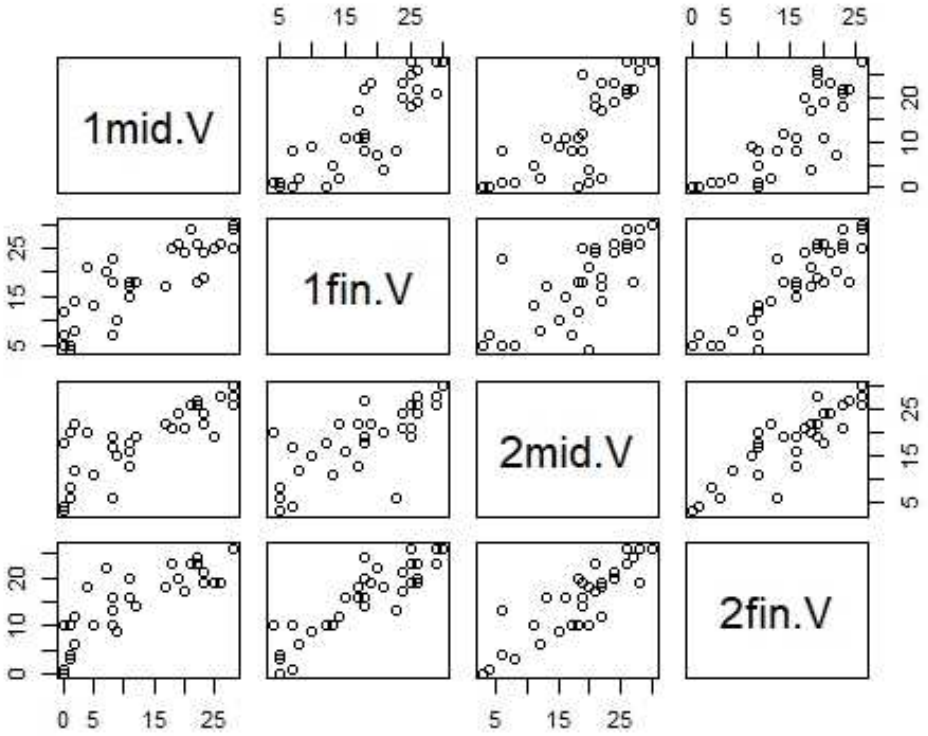
統制された教育法を、複数の学校で実施する必要がある。

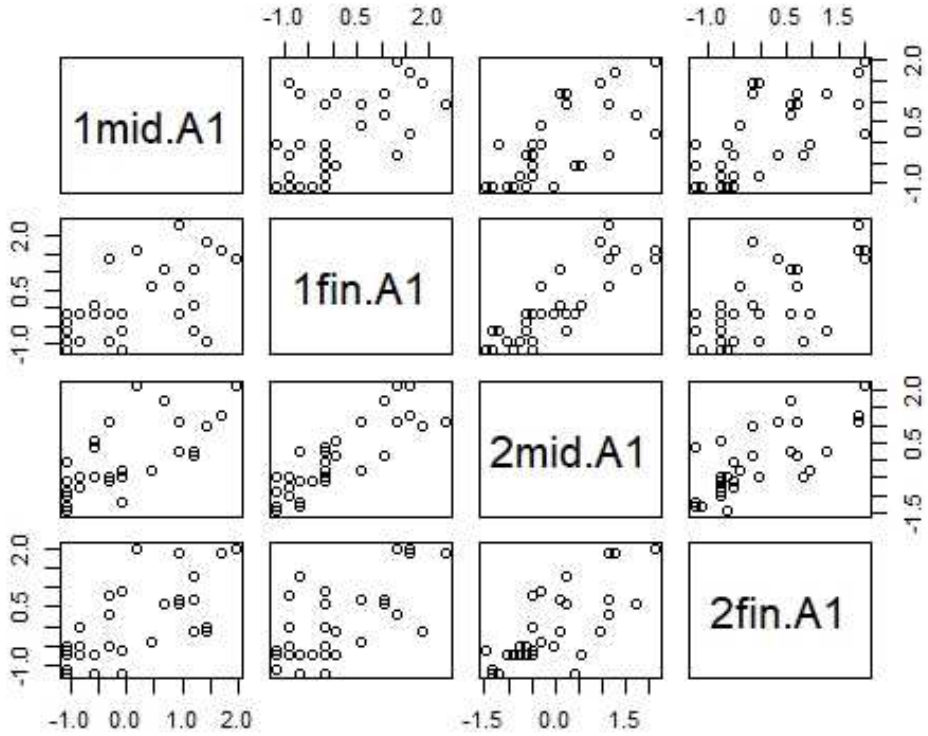
参考）２学期中間テストのスキル間相関





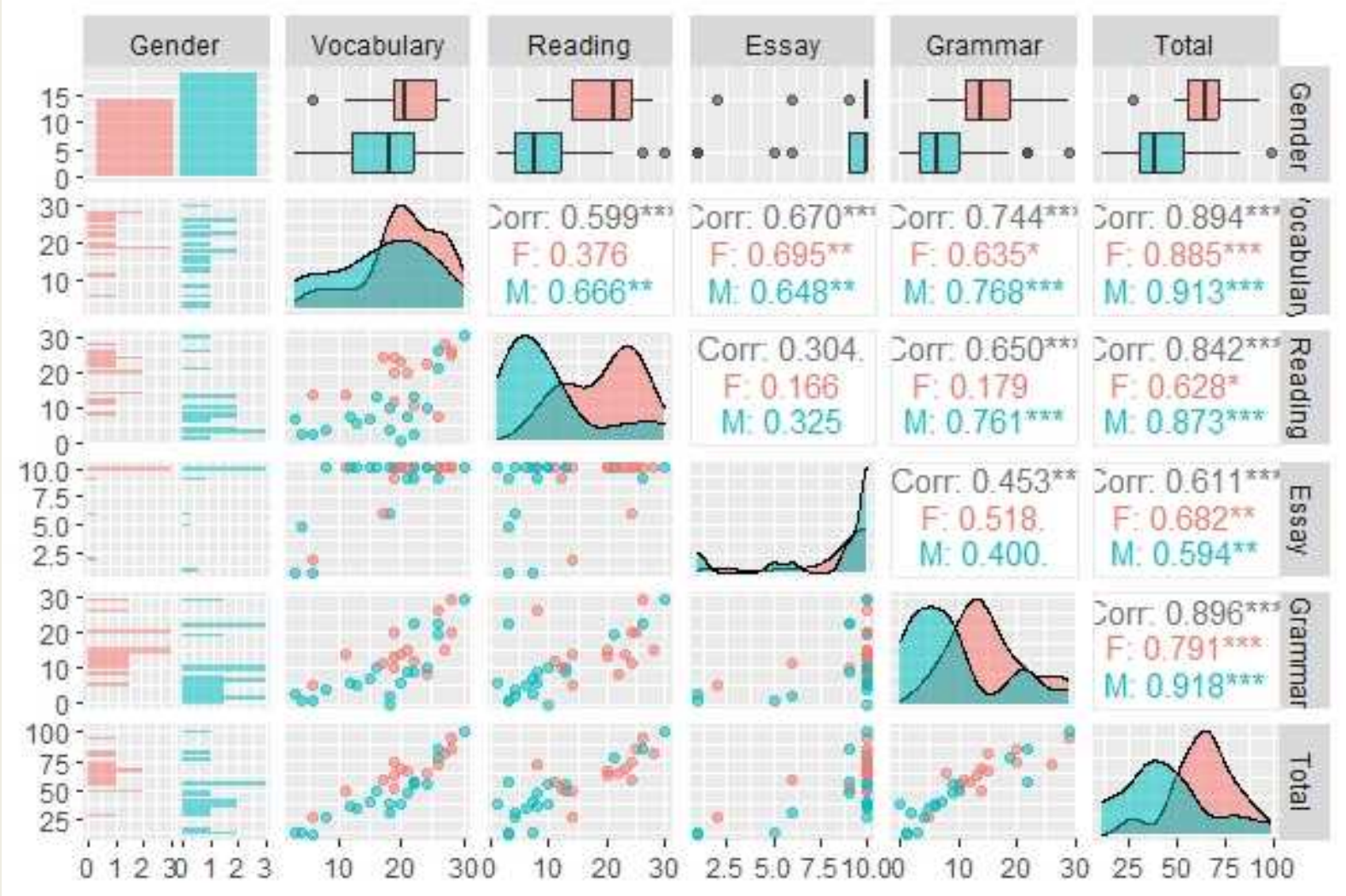
参考）V間の相関、A1間の相関





参考）２学期中間テストの男女層別分析

※女子の成績の方が全体的に高いことが読み取れる。



参考）観点①：偏相関係数行列

※**相関係数**では、「広い意味での学力」が交絡因子として働き、全変数に正の疑似相関が出やすくなるため、そのバイアスを軽減するために**偏相関係数**を算出している。

１学期中間

	V	R	E	G
Vocabulary	1.000	0.487	-0.085	**0.346**
Reading	0.487	1.000	**0.362**	**0.355**
Essay	-0.085	**0.362**	1.000	0.269
Grammar	**0.346**	**0.355**	0.269	1.000

１学期期末

	V	R	E	G
Vocabulary	1.000	0.525	0.247	0.244
Reading	0.525	1.000	**-0.322**	**0.377**
Essay	0.247	**-0.322**	1.000	0.523
Grammar	0.244	**0.377**	0.523	1.000

２学期中間

	V	R	E	G
Vocabulary	1.000	0.267	0.571	0.496
Reading	0.267	1.000	-0.142	**0.373**
Essay	0.571	-0.142	1.000	-0.031
Grammar	0.496	**0.373**	-0.031	1.000

２学期中間

	V	R	E	G
Vocabulary	1.000	0.427	**0.329**	0.290
Reading	0.427	1.000	0.053	**0.393**
Essay	**0.329**	0.053	1.000	0.037
Grammar	0.290	**0.393**	0.037	1.000

参考）観点②：偏相関係数行列

※観点①に比べ、②は偏相関の絶対値が大きい、すなわちスキル間の関連性が大きいことが特徴的。

１学期中間

	A1	A2	B1	B2
A1	1.000	0.563	-0.104	0.172
A2	0.563	1.000	0.434	0.418
B1	-0.104	0.434	1.000	0.250
B2	0.172	0.418	0.250	1.000

１学期期末

	A1	A2	B1	B2
A1	1.000	0.267	**0.330**	0.005
A2	0.267	1.000	0.595	0.744
B1	**0.330**	0.595	1.000	**-0.392**
B2	0.005	0.744	**-0.392**	1.000

２学期中間

	A1	A2	B1	B2
A1	1.000	0.754	-0.425	-0.037
A2	0.754	1.000	0.697	**0.381**
B1	-0.425	0.697	1.000	0.067
B2	-0.037	**0.381**	0.067	1.000

２学期中間

	A1	A2	B1	B2
A1	1.000	0.135	0.250	0.062
A2	0.135	1.000	0.831	0.048
B1	0.250	0.831	1.000	0.115
B2	0.062	0.048	0.115	1.000

参考文献

三森ゆりか（2003），「外国語を身につけるための日本語レッスン」，
白水社.

根岸雅史・村越亮治（2014），「文法の手続き的知識をどう測るか」，
ARCLE REVIEW.

亘理洋一・草薙邦広・寺沢拓敬・浦野研・工藤洋路・酒井英樹（2021），
「英語教育のエビデンスーこれからの英語教育のために」, 研究社.

Brian Caffo（2019）, “Regression Models for Data Science in R”,
Leanpub.

令和4年度
「新時代に対応した高校授業改革推進事業（指導・評価研究部門）」

宮崎県立福島高等学校　三宅 志信

「指導」と「評価」の一体化についての研究

- 【研究内容】
- ・ １－２ 「学びに向かう力・人間性等」を測る評価シートの作成
- ・ ２ 「思考力・判断力・表現力等」を測る評価問題の作成

・ ３　ICTを活用した指導案の検討、検証授業の実施

「学びに向かう力・人間性等」を測る評価シートの作成

・中学校の資料と高校の資料を参考にしながら作成

■　【3ステップを意識した評価シート】

①レッスンが終わるときにできるようになってほしいものを提示し、

生徒に自分の目標を立てさせる

②レッスン中盤で今までの振り返りをする。

③レッスン最後の時に改めて振り返りをする。

評価シート(案Ⅰ)

①新しいレッスンに入る時間にまずシートの上段に記入させる。

Lesson 3　Dear Juliet

教科担チェック印

2－(　　) NO.(　　) NAME(　　)

●MY RECORD OF STUDY●

目標

①一般的関心の高い話題について，平易な英語で書かれた説明文を読んで，概要や要点を捉えることができる。
②平易な英語で書かれたやや長めの物語を読んで，話の筋を捉えることができる。
③形式主語（to 不定詞･that 節）について理解し、英文を１文作ることができる。
④否定の主語について理解し、英文を１文作ることができる。

STEP1： 目標達成のためにするべきこと（具体的にどのようなことに取り組むと良いか、どのようなことを意識すると良いかを自由に書いてみよう。）

全体目標の提示

全体目標を達成するための個人目標の設定

評価シート(案Ⅰ)

②レッスン中盤に評価シートの中段に記入させる。

STEP2： 現在の状況を確認し、目標に向けて今後何をすればよいか考えよう。

・この単元に入って、うまくできるようになったことを書いてみよう。

・この単元で取り組んだ中で、難しいと思うことは何か、それがうまくできるようになるためにはどのような工夫が必要かを書いてみよう。

現在どの程度目標が達成できているのかを自分で振り返り、自分で改善することで、学びに向かう力を培う。

評価シート(案1)

③レッスン最後の時間にシートの下段に記入させる。

STEP3： 自分が達成できたことを確認して、次の目標を考えよう。

・この単元を通して、うまくできるようになったことを書いてみよう。

・今回の反省を踏まえ、次の単元ではどのようなことに取り組み、どのようなことを意識しようと思いますか。

最後にもう一度自己評価をし、次のレッスンへの意識を高める。

評価シート(案1)の問題点

・自分のクラスの実態に合っていない。

　文章を書くのが苦手な生徒が多いため、評価シートを苦痛だ、負担だと感じる生徒が出てくる可能性大。

→ひとこと・記号で完結する評価シートに変更。

・4技能5領域の自己評価もさせたい。

→裏面に項目を追加。(レッスン最後の時間のみ使用。)

評価シート(案2)

【上段部分】

Lesson 3　Dear Juliet

教科担チェック印

2－(　　) NO.(　　) NAME(　　)

●MY RECORD OF STUDY●

目標

①一般的関心の高い話題について，平易な英語で書かれた説明文を読んで，概要や要点を捉えることができる。
②平易な英語で書かれたやや長めの物語を読んで，話の筋を捉えることができる。
③形式主語（to 不定詞・that 節）について理解し、英文を１文作ることができる。
④否定の主語について理解し、英文を１文作ることができる。

STEP1： 目標達成のためにするべきことを１つ書こう。

記入欄を狭め、かつ行を削除
→たくさん書く生徒はたくさん書く。文章が苦手な生徒はひとことだけ書く。

評価シート(案2)

【中段部分】

STEP2： 現在の状況を確認し、今後の授業に生かそう。

それぞれの項目について、できたことに A、微妙だなと思うことに B、できなかったことに C を書き、その理由や改善点を書こう。

目標	評価	その評価をつけた理由・改善すべき点
①		
②		
③		
④		

各目標をABC評価するスタイルに変更。理由まで書かせることで、適当に評価することを防ぐ。（理由もひとことでOK。）

評価シート(案2)

【下段部分】（中段部分と同じ）

STEP3： 自分が達成できたことを確認して、次の目標を考えよう。

それぞれの項目について、できたことに A、微妙だなと思うことに B、できなかったことに C を書き、その理由や改善点を書こう。

目標	評価	その評価をつけた理由・次回気をつけるべき点
①		
②		
③		
④		

各目標をABC評価するスタイルに変更。理由まで書かせることで、適当に評価することを防ぐ。（理由もひとことでOK。）

評価シート(案2)

【裏面】

・5領域チェックシートを追加
（ABCで自己評価）

●5領域チェックシート●

今回の単元で行った活動で、できたことにA、微妙だなと思うことにB、できなかったことにCを書こう。

①聞くこと

【　　】相手の話すことが聞き取れなかった場合、何度も繰り返し尋ねる。

【　　】相手の言葉に共感する言葉を返しながら、円満な会話を継続する。

②読むこと

【　　】英文を流ちょうに読めるように、何度も音読練習をする。

【　　】英文を繰り返し読んで、内容を詳細に理解する。

③話すこと(やり取り)

【　　】相手に正確に伝わるように、語句や表現を替えながら話す。

【　　】相手の状況を的確に判断しながら、話す内容を臨機応変に変更しながら、会話を継続する。

④話すこと(発表)

【　　】発表のための原稿を、聞き手に分かるように何度も推敲する。

【　　】発表に際し、聞き手の状況を判断しながら、伝わる話し方やジェスチャーを工夫する。

⑤書くこと

【　　】自ら書いたものについて、更に論理的に推敲しながら、深い内容の英文を書く。

【　　】読み手を意識しながら、相手の状況に合わせた英文を書く。

「思考力・判断力・表現力等」を測る評価問題の作成

・１学期期末考査で評価問題を作成（別紙参照）

対象：２年探究科学コース　コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅱ
（研究授業は自分のHRで実施したものの、テスト作成担当が探究科学コースだったため、探究科学コースのテストで作成。）

「思考力・判断力・表現力等」を測る評価問題の作成

・問題内容がどの力を測るのかを分類して作成。

思考力・・・英文整序、it, that 等が指す内容を抜き出す、英問英答、表完成　等

判断力・・・正しいもの（誤っているもの）を選ぶ、適切な形を選ぶ　等

表現力等・・・英作文、日本語訳、it, that 等が指す内容を日本語で答える　等

※知識・技能（単語の意味・スペル　等）も出題。

・分類もバランスよく出題することも難しい。

ICTを活用した指導案の検討、検証授業の実施

- 【取り組んだこと】
- ① 現在の授業スタイルの見直し
- ※現在担当している学年は、中学3年次より交流あり（中高連携授業）
- 1年次：中高連携の授業で行ってきた授業スタイルで行う
- （教科書ベース、ワークシートは課題として生徒たちに配布。次の授業で解説）
- 2年次：1年次の授業スタイルにICTを導入
- （マイナーチェンジにすることで、生徒の混乱を防ぐ。）

ICTを活用した指導案の検討、検証授業の実施

【現状】自分のクラスについて

- 17人中10人がGTZ D3である。
- （D1が2人、C3が1人、C2が1人、C1が3人）
- ・簡単な指示以外は日本語でないと指示が通らない。
- ・パワーポイントのみで説明すると、今どこをやっているのかを見失う生徒が出て
- くる。
- ※T/FやGrammarなど、1文ずつなら問題なし。
- ⇒教科書本体と授業プリントを画面に映す形で落ち着いている状態
- ・「生徒の特性に合わせた」ICTの活用方法について考える必要あり。

ICTを活用した指導案の検討、検証授業の実施

■ ② 個人用端末をついに購入（実はタブレットやパソコンからずっと逃げていました…）

・どれにするか、2か月ほど吟味。

(ノートパソコン？ タブレット？ iPad？ Surface？ Chromebook??)

→Surface Pro8を購入

[決めたポイント] ※あくまで個人的な意見です。認識が間違っているかもしれません…

・パソコンとしてもタブレットとしても使いたい。

・使い慣れているOSがいい。iPhoneユーザーではないため、学校貸し出し用のiPadがうまく使えず、「タブレット」という言葉が恐怖だった。

・Microsoft Officeがないと不安でたまらない。

授業の様子

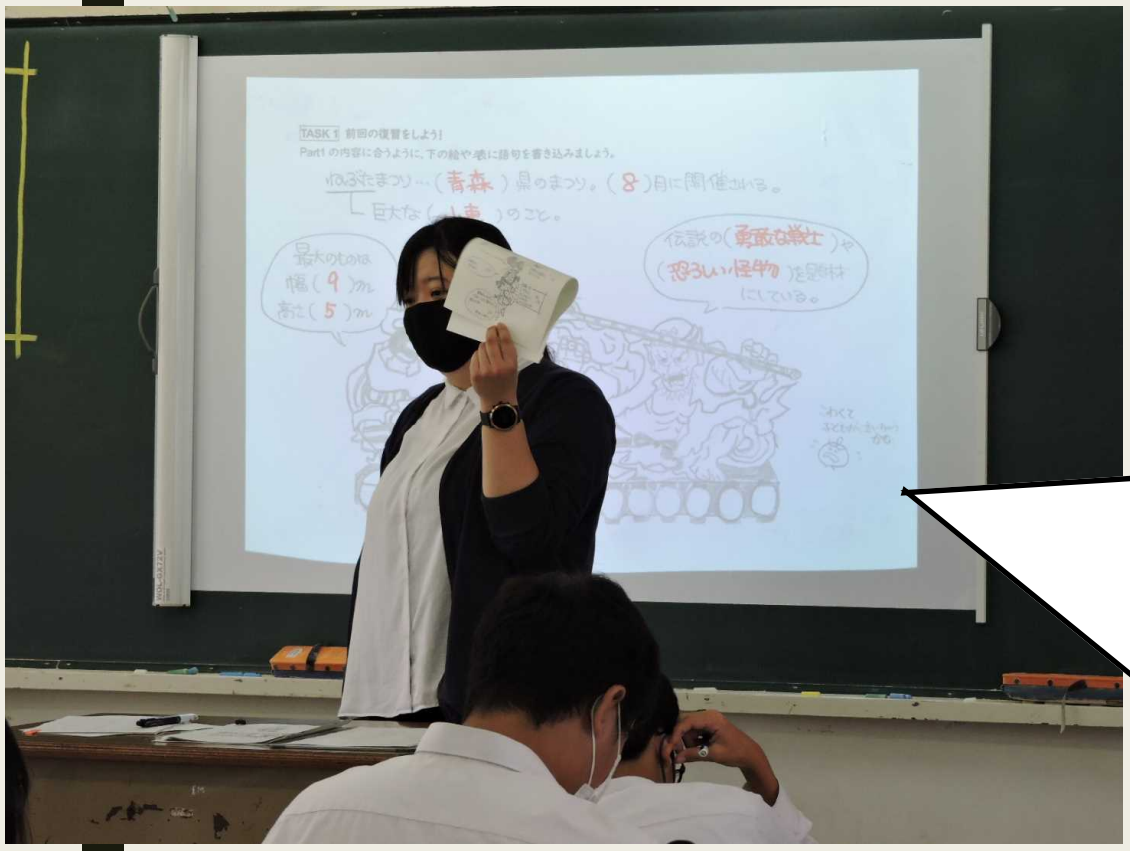
【黒板左側】
本時の目標を授業前に板書しておく。

【黒板中央】
プロジェクターで映す場所

【黒板右側】
本時のスケジュールを授業前に板書しておく。

※場所を固定することで、生徒がどこを見ればいいのかわかりやすくする。

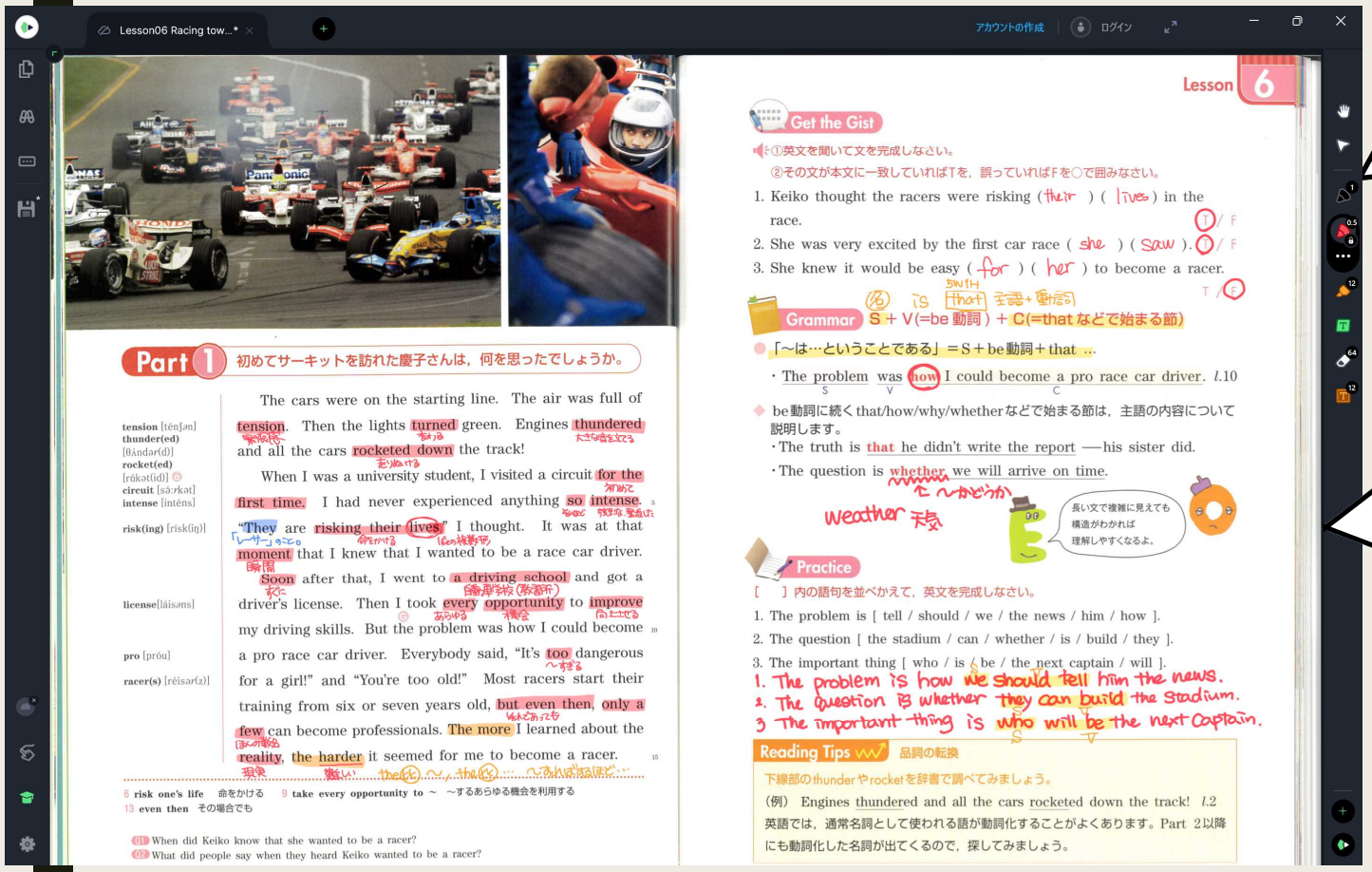
授業の様子



【レッスン導入時】
動画や画像を見せたり、パワーポイントで進出単語のフラッシュカードをしたりする。

【本文内容確認時】
あらかじめPDFにした教科書とワークシートを映し、生徒と一緒に本文を読んだり、ワークシートに記入したりする。
※パワーポイントだと切り替わる速度についていけない生徒もいるため、タブレットに直接答えを書き込むようにしている。
※使用アプリ：Drawboard PDF(無料)

Drawboardの表示画面



ペンの太さや種類、色を選べる。テキスト入力も可。

画面は拡大・縮小可能。
授業終了時に保存しておけば、次の授業の際に、前回どこまでやったか一目瞭然。

研究を通して

- ・自分のクラスの実態や、自分の授業スタイルに合った評価シートや評
- 価問題・ICT授業を確立するにはまだ時間を要する。もっと研究・研修
- し、多くの先生方のアイデアを吸収したい。

- ・もっといろいろな学校の先生方と情報交換がしたいと感じた。研究を
- していく中で、「これでいいのか」という疑問や不安を抱いたままだった。

・ICT機器に対して、抵抗や不安を持っている人はたくさんいるはず。使い方講座を校内でも校外でもどんどん入れてほしい。